

2024年度（令和6年度）

（公社）日本建築士会連合会の取組み報告

• 2025/3/27

- 公益社団法人日本建築士会連合会
情報広報委員会 情報部会
BIMマネージャー・コーディネーターテキスト作成部会
部会長 大石佳知（岐阜県建築士会）

2024年度（令和6年度）

（公社）日本建築士会連合会の取組み報告

・BIMマネージャー・コーディネーター読本

- 建築設計におけるBIMの活用は、3Dモデルからパースを作成し、相互に食い違いのない図面を描くことだけにとどまらない。BIMは設計の情報を施工時に参照し、維持管理や資産管理に利用するなど、建築物のライフサイクル全般に活かすことができる。
- 今後は、建築に関する専門的な知識や技術、BIMの利用に関する知識やスキルを有するだけではなく、統合BIMモデルを活用し、個別のプロジェクトにおける意匠・構造・設備の各部門間や設計者と施工者の間のBIM利用の連携・調整、各社におけるBIM標準の策定等を担う人材が求められている。
- （公社）日本建築士会連合会は、これまでBIM利用の講習会の実施等によるBIMの普及に取り組んできたが、さらなる加速化を図るため、このたび新たなBIM関連技術者の将来像のひとつとして、BIMマネージャー・コーディネーターに関するテキストをまとめることとした。

2024年度（令和6年度）

（公社）日本建築士会連合会の取組み報告

・BIMマネージャー・コーディネーター読本（追補版）

- ・追補版では、「BIM データ連携のための IFC の理解」と、「施工段階における BIM データ活用」について取り上げた。BIM データは建築のプロセス全体において有効なもので、設計だけではなく、施工や維持管理に至るまで、建築のライフサイクル全体を支える情報のデータベースとなるもの。
- ・追補版では、BIM データを施工段階で活用する事例をまとめた。設備や構造との連携、BIM データを加工機に転送し自動加工する技術は、大手ゼネコンや大規模なプロジェクトに限られた話題と考えられがちですが、建設業界の DX 化や人材不足の解消に向けて、技術が大きく進歩していることを認識したいと考えた。

2024年度（令和6年度）

（公社）日本建築士会連合会の取組み報告

・ BIMマネージャー・コーディネーター読本 目次

- ・ 1. DXとBIM
- ・ 2. 建築BIM推進会議における日本のBIM活用
- ・ 3. BIMの世界潮流
- ・ 4. 本書におけるBIMマネージャー、コーディネーターの位置づけ
- ・ 5. BIMプロジェクトにおける情報マネジメント
- ・ 6. BIMマネージャー、コーディネーターに必要なスキルとその役割
- ・ 7. 維持管理におけるBIM活用
- ・ 8. 各社におけるBIMのユースケースと運用体制
- ・ 9. これからBIMに取り組む方に向けて

2024年度（令和6年度）

（公社）日本建築士会連合会の取組み報告

・ BIMマネージャー・コーディネーター読本（追補版） 目次

- 1. 建設 DX を支える IFC 標準の基礎
- 2. BIM を活用した情報基盤とその利用
- 3. 設計業務フローにおける IFC を用いたデータ連携
- 4. 各社における BIM のユースケースと運用体制

2024年度（令和6年度）

（公社）日本建築士会連合会の取組み報告

・テキスト作成部会メンバー ◎：主査

- ・ ◎大石 佳知 (有) アーキ・キューブ
- ・ 吉田 浩司 (株) ixrea
- ・ 安野 芳彦 (株) 梓設計/ (株) 梓総合研究所
- ・ 日高 陽子 (株) 梓設計
- ・ 松澤 亮 (株) 梓設計/ (株) 梓総合研究所
- ・ 尾畑 貴司 (株) パブリッヂデザイン

オブザーバー

- ・ 泉 昌一郎 オートデスク (株)
- ・ 佐藤 和孝 エーアンドエー (株)
- ・ 志茂 るみ子 グラフィソフトジャパン (株)
- ・ 野路 皓平 福井コンピュータアーキテクト (株)

2024年度（令和6年度）

（公社）日本建築士会連合会の取組み報告

・ テキスト執筆者

- ・ 安野 芳彦 氏 （株）梓設計
- ・ 津多 秀和 氏 日揮グローバル（株）
- ・ 茅根 哲朗 氏 日揮グローバル（株）
- ・ 伊藤 久晴 氏 （株）BIMプロセスイノベーション
- ・ 高橋 りえん氏 オートデスク（株）
- ・ 山際 東 氏 （株）ビム・アーキテクト
- ・ 新田 唯史 氏 美保テクノス（株）
- ・ 山内 昇 氏 吉川建設（株）
- ・ 大西 康伸 氏 熊本大学大学院
- ・ 松澤 亮 氏 （株）梓設計
- ・ <追補版>
- ・ 足達 義信 氏 buildingSMART 理事・国際員会委員長、鹿島建設（株）
- ・ 大越 潤 氏 芝浦工業大学 SIT 総合研究所 客員研究員、清水建設株式会社

2023年度（令和5年度）

日本建築士会連合会の取組み報告

・BIMマネージャー・コーディネーター読本、**追補版**

- ・ 国内外の各社の取組み
- ・ 設計事務所 4社
- ・ 建設会社 3社
- ・ コンサルタント 2社
- ・ 外国の設計事務所 10社
（米国、英国、インド）



2024年度（令和6年度） （公社）日本建築士会連合会の取組み報告

セミナーの内容、各会場の参加者

- 第1部 BIM プロジェクトにおける情報マネジメントについての説明
- 第2部 BIM マネージャーの立ち位置、役割についての説明
- 第3部 国内・海外の先進事例の紹介、質疑応答
- 全会場（13:30~16:30）

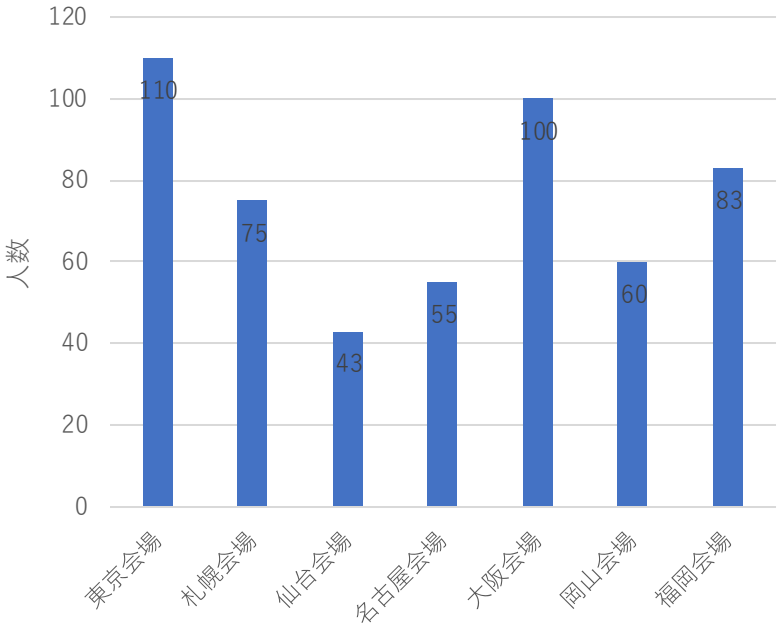


2024年度（令和6年度） （公社）日本建築士会連合会の取組み報告

1.各会場の申込者、参加者、アンケート回収人数と回収率

各会場の参加人数と アンケート回収率（人）（％）				
会場	開催日	参加者人数	アンケート回収人数	回収率
東京会場	2024/11/11	110	62	56.3%
札幌会場	2024/11/21	75	54	72.0%
仙台会場	2024/11/19	43	30	69.7%
名古屋会場	2024/12/4	55	33	60.0%
大阪会場	2024/11/3	100	63	63.0%
岡山会場	2024/12/17	60	45	75.0%
福岡会場	2024/12/19	83	59	71.0%
参加人数計		526	346	65.7%

2.会場別参加者数（人）



東京、名古屋会場が早々に定員に達し、他の会場も定員を超える申込者数があったため、期限前に申し込みを締め切るほど、盛況であった。アンケート結果、参加者の満足度も高く、さらに多くの方に参加してもらう機会を設ける必要がある。

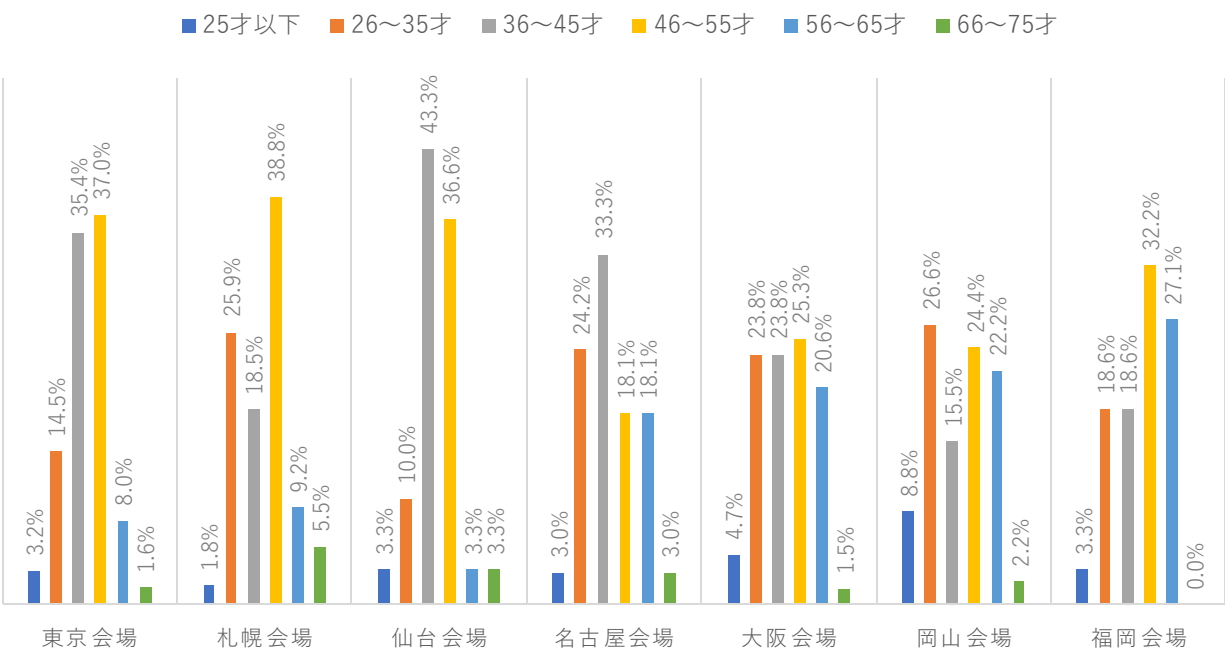
2024年度（令和6年度） （公社）日本建築士会連合会の取組み報告

アンケート結果

3. 会場別年代別参加者数

各会場の年代別の参加者数 (人)							
	25才以下	26～35才	36～45才	46～55才	56～65才	66～75才	合計
東京会場	2	9	22	23	5	1	62
札幌会場	1	14	10	21	5	3	54
仙台会場	1	3	13	11	1	1	30
名古屋会場	1	8	11	6	6	1	33
大阪会場	3	15	15	16	13	1	63
岡山会場	4	12	7	11	10	1	45
福岡会場	2	11	11	19	16	0	59

4. 各会場における年代別参加者の割合（％）



東京、札幌、仙台、福岡会場では46～55才の参加者が3割を超えた。また、札幌、仙台、名古屋は36～45才の参加者が3割を超えた。参加者の年代において地域性は確認できない。

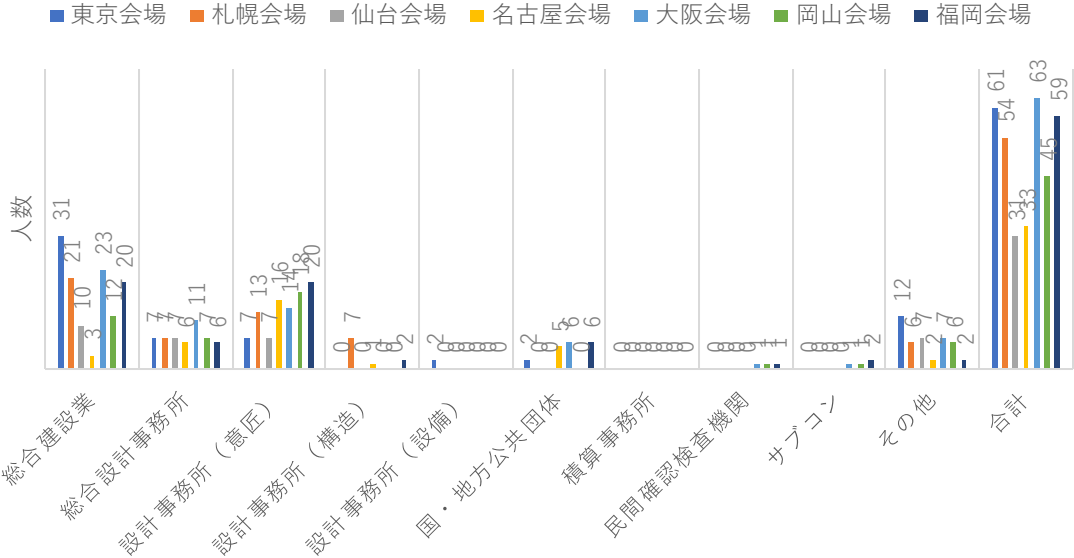
2024年度（令和6年度） （公社）日本建築士会連合会の取組み報告

アンケート結果

3. 会場毎の所属組織（会社）別人数

会場別の所属組織別人数 (人)											
	総合建設業	総合設計事務所	設計事務所 (意匠)	設計事務所 (構造)	設計事務所 (設備)	国・地方公共団体	積算事務所	民間 確認検査機関	サブコン	その他	合計
東京会場	31	7	7	0	2	2	0	0	0	12	61
札幌会場	21	7	13	7	0	0	0	0	0	6	54
仙台会場	10	7	7	0	0	0	0	0	0	7	31
名古屋会場	3	6	16	1	0	5	0	0	0	2	33
大阪会場	23	11	14	0	0	6	0	1	1	7	63
岡山会場	12	7	18	0	0	0	0	1	1	6	45
福岡会場	20	6	20	2	0	6	0	1	2	2	59
合計	51	95	10	2	19	0	3	4	42	346	120

4. 会場毎の所属組織（会社）者数



セミナー参加者はゼネコン、総合設計事務所、そして設計事務所（意匠）の人数が多かった。特徴としては、名古屋会場では総合建設業の参加者が極端に少なく、北海道では設計事務所（構造）が他の地域と比べて多かった。積算事務所の参加は無かった。その他には、BIMベンダー、メーカー、BIMコンサルタント等が含まれている。

2024年度（令和6年度） （公社）日本建築士会連合会の取組み報告

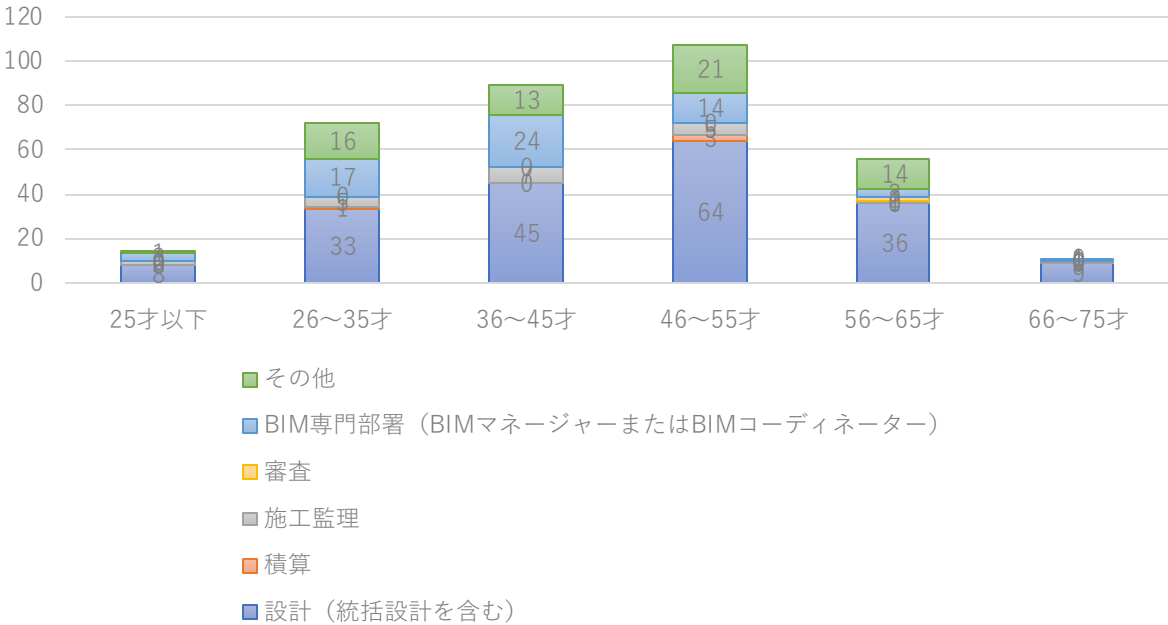
アンケート結果

5. 会場毎の所属組織（会社）別人数

年代別の職域毎の参加人数 (人)							
	(統括設計を含む) 設計	積算	施工監理	審査	BIM専門部署	その他	合計
25才以下	8	0	2	0	3	1	14
26～35才	33	1	5	0	17	16	72
36～45才	45	0	7	0	24	13	89
46～55才	64	3	5	0	14	21	107
56～65才	36	0	1	2	3	14	56
66～75才	9	0	1	0	1	0	11
割合	55.8%	1.1%	6.0%	0.5%	17.7%	18.6%	

BIM専門技術者は（BIMマネージャーまたはBIMコーディネーター）を含む

6.参加者の年齢別の職域別人数



全体として46～55才の割合が最も高く、設計（統括設計を含む）に従事する方が多い。また、全体を通してBIM専門業者が17%を占める。また、45才までの参加者におけるBIM専門業者の割合は設計（統括設計を含む）の5割近くを占める。BIM専門業者として建築業界に関わる方の割合が比較的高い。

2024年度（令和6年度）

（公社）日本建築士会連合会の取組み報告



- **セミナーテキストの公開** <https://kenchikushikai-bim.org/>
- （公社）日本建築士会連合会 BIMポータルサイトにおいて、BIMマネージャー・コーディネーター読本（追補版含む）を公開



2024年度（令和6年度）

（公社）日本建築士会連合会の取組み報告

・2025年度（令和7年度）の活動計画（案）

- ・ ライフサイクルコスト全般を見据えた維持管理におけるBIMの活用ほかの事例収集とテキストの作成
- ・ 追加のテキストを活用したBIMマネージャー・コーディネーターの育成のためのセミナーの開催

2024年度（令和6年度）

（公社）日本建築士会連合会の取組み報告

• 2025/3/27

- 公益社団法人日本建築士会連合会
情報広報委員会 情報部会
BIMマネージャー・コーディネーターテキスト作成部会
部会長 大石佳知（岐阜県建築士会）